

笑顔あふれる病棟を目指しています

7B病棟 看護長 佐藤 美幸

7B病棟とは？

7B病棟は、外科32床、皮膚科14床、小児科2床の計48床の混合病棟です。

外科では消化器系疾患（食道・胃・腸・胆嚢・肝臓・膵臓など）や、肛門疾患、甲状腺や乳腺などの手術を主に行っています。皮膚科でも良性・悪性腫瘍の摘出術や難治性の皮膚潰瘍に対する植皮術など、外科的な手術が行われています。そのほか、帯状疱疹、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患や、膠原病、自己免疫疾患などの患者さん、小児科には乳幼児から中学生くらいまでの肺炎や喘息、嘔吐や下痢などの患者さんが、主に入院されています。

7B病棟の役割

医療の高度化により手術の適応範囲が広がり、重症化・複雑化した症例が増え、患者さんの高齢化も進み、術後合併症を起こしやすい患者さんが多くなってきています。手術後の合併症として肺合併症、縫合不全、腸閉塞、深部静脈血栓症、精神症状の出現などがありますが、これらの術後合併症を予防するには、手術後、早期に、日常生活動作を手術前の状態に戻すことが重要となります。特に高齢者の方は、筋力の低下を予防し、寝たきりにならないためにも手術後の早期離床（ベッドを離れて歩行ができる）が大切になってきます。

そのため、私たち看護師は、入院時に手術や治療を安心して受けることができるように、標準的な治療・ケアプランが分かりやすく図式化された「クリティカルパス」という計画書や「手術前オリエンテーション」のパンフレットなどを使用して、入院から退院までの経過や、手術後の回復に必要な知識や認識を持っていただけるよ

う説明を行い、分からないことなどがなければ確認し、必要に応じて説明を繰り返しています。

手術後は患者さんの安全・安楽に留意し、早期離床を促し、合併症を予防して、早期退院ができるよう看護を行っています。

「外科」というと「手術」を連想される方が多いと思いますが、手術だけではなく、化学療法や放射線療法などの治療を受けられる患者さんや、がんの終末期を迎えられ、疼痛や症状のコントロールを目的とした患者さんなども入院しています。

7B病棟では、これらの患者さんのより良い看護を目指し、スキンケア（人工肛門や床ずれ予防など）、化学療法、疼痛コントロールなど7つのグループに分かれ、新しい知識の習得や看護ケアの統一を図っています。

また、皮膚科では糖尿病を併存している患者さんが、下肢の蜂窩織炎^{ほうかしきえん}や潰瘍で入院される場合が多く、皮膚科の治療とともに糖尿病のコントロールが大切になっています。このような患者さんが、退院後、自己管理ができるよう、フットケアにも今後力を入れていきたいと考えています。

患者さん個々のニーズに合わせた、満足していただけるような看護ができるよう、そして患者さんやその家族、我々スタッフ自身も笑顔になれる病棟を目指していきたいと思います。

※蜂窩織炎：皮膚の深いところから皮下脂肪組織にかけた細菌による化膿性炎症

